

大学近況報告



入学式
2015.4.4



朝食会
2015.4.6-8



学外研修
2015.4.8-9



医療福祉フォーラム
2015.5.24



感謝の日
2015.6.27

Eサポ(教育支援センター)がリニューアルオープンしました

4月2日に1号館1階にあったEサポが地下の学生ホールに移り、リニューアルオープンしました。新しい設備が備わった空間で学生たちも活き活きと学修などに取り組んでいます。

同窓会からもシナモンの鉢植えを贈り、快適な空間づくりに役買わせていただきました。



同窓会からシナモンの木を贈りました

快適トイレ空間

1号館1階図書館の隣にあるトイレが快適な空間にリニューアルされました。男女とも内装がちょっと豪華になりウォシュレット機能のトイレになりました。女子トイレはパウダールームも備えおしゃれな空間になりました。



女子パウダールーム

科学技術学部臨床工学科設置(平成28年4月開設)

平成28年4月に科学技術学部は4年制大学では東北に初めて臨床工学士を育成する臨床工学科が設置されました。

臨床工学士(国家資格)は「いのちのエンジニア」呼ばれ、医療機関において「生命維持管理装置の操作および保守点検を行う医療機器のスペシャリスト」として活躍しています。発展を続ける医療の中で、高度医療を支える医療チームの一員として、医師や看護師と共に働く重要な役割を担います。専門的な工学知識を持った唯一の医療従事者です。



仙台駅で開催されたイベント
(2015.7.24-25)

恩師から



元総合政策学部教授
吉水 弘行

同窓会こそ連帯の核に

私はこの3月で7年間の教職を終え、東京に戻りました。その間に総合政策学部長、評議員、学生部長、就職委員長に就き、学生たちと様々な交流をする機会を得ました。中でも、東日本大震災という未曾有の体験が、学生たちに新たな使命感と躍動を与えたのを忘れることができません。被災者に対するボランティア活動、学生同士の助け合い、そして全学を巻き込んだ被災地支援コンサートの取り組みによって、それまでのんびりとしていた学生たちが、必死で緊張した日々を送るようになり、顔が生き生きと輝き出したのを思い出します。就職活動も、今までの「受け身的な」姿勢から、明らかに「攻め」の姿勢に変わりました。自分が本当は何をしたいのか、を本気で考える学生が増えたのです。

大学の文化は、このように世の中の刺激を受けて、どんどん進化していくのだと思います。内側からの学生の日々の活動に加え、実社会における卒業生の活躍、そして卒業生同士のつながりが、在校生の憧れを呼び、それが誇りにつながるのが理想です。同窓会は、その橋渡しをする役目を担います。本学はまだ創立20年に満たない若い大学ですが、その分卒業生と在学生の距離が近いメリットがあります。同窓会が連帯の核になって、TBG文化の進化に向けて、一層の輝かしい活躍ができるのを期待しています。



元科学技術学部建築環境学科教授
現東北文化学園大学名誉教授
岡田 誠之

国見の丘での17年を振り返り

東北文化学園大学同窓会がスタートしてから10周年が過ぎ、次の10年に向かって1年目が過ぎようとしております。毎年約500名の方々が社会の一員として全国に巣立っております。東北科学技術短期大学2年、東北文化学園大学は開学から17年間お世話になり、平成27年3月で定年(68歳)となりました。多くの皆様のご支援によって無事定年を迎えることができましたことを心より感謝申し上げます。学園のシンボルワード「輝ける者を育む」が近年さらに強化されてきております。大学の発展は、卒業生がいかに社会に貢献しているかにかかっております。三位一体という言葉がありますが、卒業生のみでなく教職員、学生も、それぞれの立場で活躍することによって母校が発展することになります。わたくし自身、東北文化学園大学の第1期卒業生と思いながら、先輩の目線で授業や短大生22名、学部生47名の卒研指導を行ってきたつもりです。この間、学園に様々な問題が生じましたが、歴史の中の山あり谷ありの一息象であったと受け止めております。おわりに同窓生が母校のシンボルワードを思い出すことも大切ではないでしょうか。このシンボルワードを心に、ますます活躍されますことを祈念申し上げます。

輝人

「自分が自分らしく生きるための努力」

医療福祉学部 保健福祉学科 保健福祉専攻
平成19年3月卒業 高橋 直樹

医療福祉学部保健福祉学科を卒業し、卒業後はプルデンシャル生命保険株式会社ドライデンカスタマーセンターに勤務をして9年が経とうとしております。

私は先天性障害で手の手術後、リハビリの一環としてピアノとマリンバを始めましたが人前で演奏をするために始めたわけではありませんでした。しかし、今では仕事と演奏活動を両立することでハリのある人生を過ごさせていただき、音楽を教えてくれた親にも感謝しております。

大学2年に第一回ピアノパラリンピックに出場し奨励賞を受賞し、その後も活動を続けてニューヨーク、カナダでも演奏をさせていただきました。今でも演奏活動を進める中でも在学時に大学の友人が紹介してくれたパイオ先とは今でも交流があり、宮城県障害者福祉センターでのライブメッセージや福祉まつりでの演奏をさせていただき、その縁から他施設での演奏や、11月には宮城女子学院大学や仙台メディアテークでの演奏をします。また大学の平野先生からも昨年は学会で公開特別演奏を企画していただき大変勉強になりました。

仕事をしながら演奏活動は大変です。休日は東京にも行き音楽の勉強もしており、少しでも納得のいく音楽を聴いていただけるようにと努力しております。

実家が東松島市で震災によりピアノとマリンバが津波で使えなくなりましたが、マリンバを購入し、会社がピアノと練習場所を提供してくださり今は仕事の後にピアノを休日はマリンバを会社で練習しております。

今は10月の東京国際フォーラムで開催されるゴールドコンサートに向けて、月2度の東京でのレッスンを受けるながらゴールドを受賞できるよう努力をします。

自分が自分らしく生きるために努力、そして周囲の支えがあったからこそ今の自分がいるということを感じ、演奏を通して伝えていきたいと思っています。



「出会い、そして今の私にできること」

医療福祉学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻
平成18年3月卒業 本間 里美(旧姓 松田)

「私のお母さんは私が20歳になるまで生きていられないかもしれない」私が中学校の時、大親友は私に言いました。何も言えない私がいました。臨床実習で地元病院に行った時、あるALS患者さんの病室を見学させてもらいました。挨拶をする「文字盤」で一言、「さとうちゃん、良い理学療法士さんになってね」と言葉をかけてくれたのです。

この病状は、全身の筋肉が麻痺していく進行性の疾患です。認知機能は障害されませんが進行につれて、呼吸器をつけて生活をしていく必要があります。これが、私とALSとの最初の出会いになります。あれから10年、私は現在、ALS患者さんが経営する訪問介護ステーションで理学療

法士の資格を生かしながら患者さんを支援する仕事をしています。また、日本ALS協会のコミュニケーション支援委員として活動をしています。呼吸器をつけて生きる選択をし、親友の成人式を見届けて天国に逝った友人のお母さんに恥じないように今の私にできることを続けていきたいです。



「人生は一度きり」

医療福祉学部
リハビリテーション学科
作業療法専攻
平成19年3月卒業
齋藤 真里

元青年海外協力隊 作業療法士隊員
平成24年度2次隊 コロンビア派遣



大学卒業後、福島県の総合病院に作業療法士として就職しました。入職時は仕事に慣れることや知識獲得のための勉強で忙しい日々でしたが、その分やりがいもあり作業療法士の仕事が好きでした。きっとこのまま働いて過ごしていくのだろと思っていたのですが、そんな私に転機が訪れます。東日本大震災です。

震災後、より死を身近に感じるようになり、「明日死んでも後悔しないか?」と考えるようになりました。結果、後悔しないようにやりたいことをやろうと決断し始めたのです。まずは、自分は何がしたいのか、何ができるのかを考えました。そこで出た答えが青年海外協力隊です。自己満足ですが、私の職業を必要としている所で誰かの役に立ちたかったのです。また、自分の存在を肯定したかったんだと思います。

現在は任期を終え日本に戻ってきましたが、協力隊として活動できた2年間はとてもいい経験になりました。人生は一度きりなので、後悔しないようにこれからもやりたいことをやって生きていきます。

サークル

「Love in Action」

献血サークル
科学技術学部 知能情報システム学科4年 佐藤 淑人

私たち献血サークルは、昨年度同好会から活動を開始しました。最初は7人で活動していたのですが、サークルに移行した今では17名まで増えました。

活動の内容としては、学園に献血車がきたときに呼びかけをし自分たち自ら献血を行うというものです。サークル員全員が献血の大切さを熟知したうえで活動しているので、やらされているわけではなく一人一人が自ら進んで活動を行っています。学内だけではなく学外でも活動を行っています。血液センターで他の学生団体と勉強会を行ったり、デパートでの呼びかけボランティアや献血イベントへの参加など様々な活動を行っています。呼びかけを終えた後にみんなで話し合い、もっと参加者が増えるようにするためには、どうしたら良いかなどアイデアを出し合ったりして工夫をして日々勉強しています。学内での呼びかけの時は全館放送をしたり前もって告知をしたりして工夫をしています。これからも学内、学外の活動に積極的に参加していきたいと思っています。

